

組合員の交流ページ

今月のテーマは…

もし、宝くじや高額懸賞が当たったら…

あけましておめでとうございます！
今月のテーマは「もし、宝くじや高額懸賞が当たったら…」です。
年初めに大きな夢を見てみようと思い、このテーマにきめました。
私は、年末の宝くじは購入したことはありませんが、当たったら、おそらく趣味に使ってしまうと思います。
投稿では色々な夢を投稿してもらいました。一方で自戒を含んだ投稿ものもあり、千差万別です。
広報担当

・ いざ考えてみると…

◆雪のない所に住みたい。家を建て、移住。家とは言っても、小さくて平家がいい。年もとって動けなくなった時のために半分は老後の準備の為に貯金。子供には残さず、迷惑をかけない為に、自分の身の回りの事は宝くじの当選金で！あつ！その前に、子供の私立の大学授業料、アパート代等の分はとっておかなきゃ。イヤ、使わなきゃ。全て…まかなうとなったら、いくら当選金があっても足りない？やっぱり、子供に残すべき？亡くなった後の費用か。1等当たれば大丈夫だね。

藤崎町のY・Mさん

・ 計画済みです！

◆今迄できずにがまんしていた事など誰でもあると思います。まずそれを行う(宝くじ買い続けること23年当てることなく買い続けているが)。次にボロい家の建てなおし。小さくこじんまりとした家でOKなので計画して実行！残りは子供と自分の老後の為に貯金と年金に分けておく。これで全部かな！

東北町のM・Sさん

・ 当たったことがあります

◆宝くじで10万円を当てた事があり、みずほ銀行に息子と2人で行ききました。今度はぜひ娘もみずほ銀行に連れて行きたいです。

青森市のフラワーさん

・ ハマってしまいました

◆以前、宝くじにはまってしまい、年間の購入額が大変な事に。今は気がついた時だけ。夢は買わないとみられないし、ついつい大きな夢をみながら買ってしまった。懸賞も当たるかと思いきや、応募。限らないのが金欲、食欲、欲望……。

弘前市のR・Sさん

・ 夢とは…

◆夢のまた夢。てーまを目の前にして、沈黙の数が過ぎました。現実と夢がイコールで繋がっている自分に気づかされました。日常、夢を掲げるにもエネルギーが必要なのではないかと思ってしまう。簡単に、夢だから何でも書こうと思いましたが進みませんでした。

むつ市のM・Oさん

・ 残したい小さな自然

◆近所にある空地を買取りたいです。この空地は、春のオオイヌフグリから始まり、ハルジオン、秋のエノコログサまで、いろいろな雑草が楽しめます。春にはヒバリが巣をつくり、秋のエノコログサの実を食べに、小さな野鳥が集まります。除草剤を使わずに、定期的に雑草を刈っているのが生物がいます。いつでも空地のままで楽しみたいと思います。まわりは全て住宅地。この空地がなくなるのも時間の問題かと思えます。だから私が買取れたらなと思います。

八戸市のちゆんさん

・ 使い道は決まっています

◆私は億単位のお金はいりません。数え方・使いみちが解りません。なので、一千万円が当たったら…、五百万円は貯金します。残りの五百万円で自分の部屋に収納コーナーを三つ作ります。まず一つは本が多いので本のコーナー。二つ目は洋服。三つ目は生協さんから買った木いちごの苗と四季なりいちごを植え込み、好きなだけ本を読めるコーナーです。予算があるので、もみじも数本買い、庭に植えます。うか。

三沢市のへばなさん

・ 笑顔のある場所を…

◆すてきな介護施設を作りたいです。一人一人を大切に、スツツも大切に、人生最後の場として美しく、優しく、安全、安心な居場所を作りたいです。皆のスマイルがある、余裕のある居場所…やっぱり夢ですね。

黒石市のりんごさん

コープ杯争奪第11回 青森県U-10サッカー大会を 開催しました。

11月14日～15日、むつ市ウエルネスパークしもきた克雪ドームで、青森県サッカー協会や青森県民生協、コープあおもり等が主催する「コープ杯争奪第11回青森県U-10サッカー大会」決勝大会が開催されました。県内各地区の予選大会を勝ち抜いた16チームが熱戦を繰り広げました。

優勝は、八戸地区「クラッキスJr」、準優勝は、青森地区「青森福田サッカースポーツ少年団」、第3位は、上北地区「六ヶ所FC」でした。

▶優勝チームの選手にメダルを授与する菅原専務理事



▶閉会式の様子。右から、優勝した八戸地区「クラッキスJr」、準優勝の青森地区「青森福田サッカースポーツ少年団」、第4位の西北五地区「FCトウロー二」、第3位の八戸地区「六ヶ所FC」



「子ども宅食おすそわけ便」への 食品の無償提供に関する協定を 青森県社会福祉協議会と結びました。

11月22日(日)、五所川原市地域福祉センターで、「子ども宅食おすそわけ便」へ定期的な、食品を無償で提供する協定への調印式が開催され、コープあおもり並びに青森県民生協と、青森県社会福祉協議会が協定を結びました。

調印式には、各団体の代表のほか、特別立会人として五所川原市の子どもたちも参加しました。協定が結ばれた後、子どもたちへ、小池理事長からおすそわけ便が手渡されました。調印式後、提供された物品を誰でも好きな食品を選んで持ち帰れる「フードパントリー」が実施され、参加者か

らは、「子どものおやつや文房具もあり、子どもも喜んで選んでいたのだから参加したい」などの感想が聞かれました。

「子ども宅食おすそわけ便」

定期的に食品等を届けることにより、社会的に孤立しがちな子育て家庭とつながりを作ることに、必要な支援に結び付け、小さな変化にも気づきやすい関係性を築くことを目的としています。青森県内では初の試みです。



▶特別立会人の子どもたちに「おすそわけ便」を渡す小池理事長



▶フードパントリーでは、食品のほか、文房具や衣料品の提供もありました。

